

妻沼聖天山歓喜院全体概要

妻沼聖天山歓喜院は、豪華な装飾が施された本殿と、仏彫像や仏塔がある庭園がその特徴です。本殿は、その緻密な彫刻から、栃木県の日光東照宮とよく比較されます。本殿は 1760 年に建てられており、喜び・夫婦円満・長寿の神である聖天（歓喜天）様が祭られています。歓喜院は、有名な武将だった斎藤実盛（1111～1183 年）が 1179 年に創設したものです。

貴惣門は、歓喜院の正面入り口です。装飾的な彫刻を雨風から守ている 3 枚の切妻が折り重なった屋根が、その特徴です。正面入り口は、歓喜院の精神の中心であり本殿である聖天堂に繋がっています。聖天堂の外観は、寓話や仏教の教え、伝統的な中国文化の側面を伝える色鮮やかな彫刻で装飾されています。聖天堂は、国宝に指定されています。

歓喜院の創設者である斎藤実盛公像が、白髪を染める構えで鏡と筆を手に持つ 70 代の姿で表現されています。実盛公は、若い武士に見くびられまいと、戦の前に白髪を黒く染めたとされており、篠原の戦い（1183 年）で最後を遂げています。

本殿建物の裏にある庭園には小川と滝があり、そこを通る曲がりくねった小道沿いには仏教彫像が配されています。ここにある 2 階建ての平和の塔は、第二次世界大戦の戦没英霊の供養と 1951 年サンフランシスコ講和条約への批准を記念して建立されました。